

## 信用金庫の新しいビジネスモデル策定（9）

### － 地公体向け貸出の推進動向 －

#### ポイント

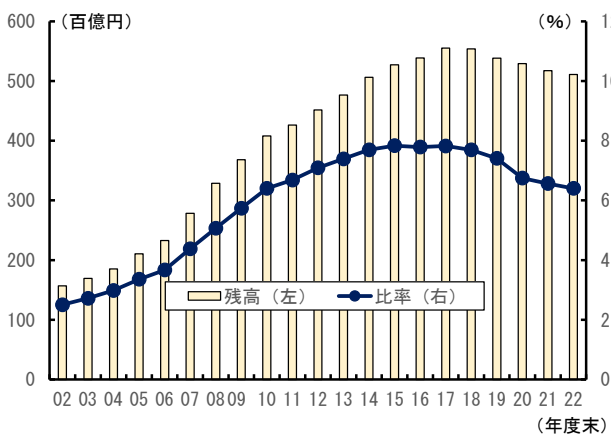
- 2022 年度末の信用金庫の地方公共団体（地公体）向け貸出金残高は、前期比 1.1%、620 億円減少の 5 兆 1,103 億円となり、5 年連続で前年度末を下回った。
- ここ数年、地公体向け貸出の推進スタンスを積極姿勢から自然体に見直す信用金庫が増えており、残高・比率ともに抑制の動きが強まっている。
- 推進時の検討課題は、取組スタンスの庫内共有であり、地公体向け貸出金の残高・比率は経営判断でコントロールする必要がある。
- 研修受講金庫の取組事例を挙げると、ゼロゼロ融資の残高増加に合わせて地公体向け貸出を抑制した信用金庫がみられた。

（注）本稿は、当研究所主催「経営戦略プランニング研修（2023 年度）」の講義および意見交換時の内容を中心に作成している。

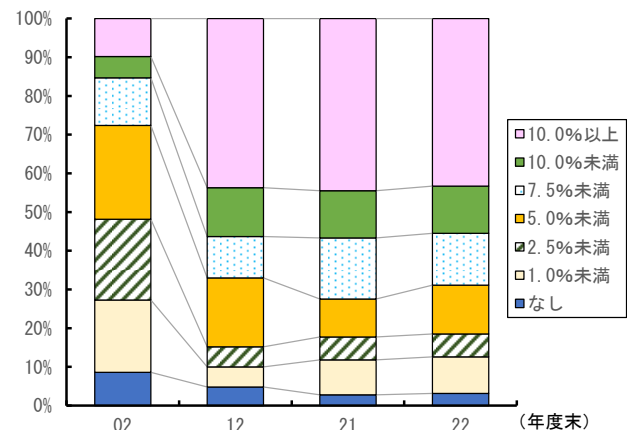
### 1. 地公体向け貸出金残高の推移

2022 年度末の信用金庫の地公体向け貸出金残高は、前期比 1.1%、620 億円減少の 5 兆 1,103 億円となった（図表 1）。近年、低採算の地公体向け貸出を自然体の推進に軌道修正する動きが強まっており、残高ベースでは 5 年連続で前年度末を下回ると同時に、貸出金残高に占める比率も 15 年度末の 7.8% をピークに 6.4% まで低下した。その一方で、2022 年度末の信用金庫別の地公体向け貸出比率をみると、①残高 0 を含めた 5% 未満が 79 金庫（構成比 31.1%）、② 5% 以上 10% 未満が 65 金庫（同 25.5%）、③ 10% 以上は 110 金庫（同 43.3%）となり、この 20 年で 10% 以上の割合が約 4 倍に上昇している。

（図表 1）地公体向け貸出金残高の推移



（図表 2）信用金庫別の地公体向け貸出比率（構成比）



（備考）1. 本稿では他業態との合併等を考慮していない。

2. 図表 1 から 3 まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

## 2. 推進の目的

信用金庫が地公体向け貸出を推進する目的は、①貸出金残高の積上げ、②利息収入の獲得、③地公体等との連携強化などとなる。近年は競争入札方式による金利競争の激化もあり、②の魅力が低下、①または③の目的が強まっている。ただし地区や個々の信用金庫によって取組スタンスが大きく異なるので、前述のとおり貸出金比率に差がみられる。

## 3. 推進時の留意点

推進時の検討課題は、取組スタンスの庫内共有であり、地公体向け貸出の残高・比率は経営判断でコントロールする必要がある。ボリューム重視から収益重視の営業スタイルに切替えが進むなか、引き続き低金利で地公体向け貸出を推進する意義や目的を庫内で十分に議論したうえでその可否を判断する必要がある。ただし残高を0にする必要性は乏しく、一定レベルについて地公体等との連携強化を目的に推進するのも一案である。

## 4. 研修受講金庫の取組事例

当研修の意見交換時に聴取した研修受講金庫の主なコメントは図表3のとおりである<sup>1</sup>。

(図表3) 地公体向け貸出に関する主なコメント

### (抑制の考え)

- ゼロゼロ融資が伸びたタイミングで、地公体向け貸出の抑制に動いた。今後も全体の貸出金残高がマイナスにならない範囲で抑制を続ける考えである。
- これまで地公体向け貸出は国債対比で収益を得られるとの判断から推進してきたが、流石にこれ以上の低金利には対応できない状況である。
- 当金庫は無理な金利競争を止めたので、地公体向け貸出が減少している。
- 当金庫は年度末の貸出金目標の未達分を地公体向け貸出でカバーしていた。ただ最近では地公体向け貸出ではなく、金利に魅力のある金融機関向け貸出で未達分をカバーしている。

### (推進の考え)

- 当金庫の地域は貸出金利回りが非常に低いので、庫内には『住宅ローンを推進するくらいなら地公体向け貸出の方が、ロットが大きいし手間もかからないので効率的である。』との認識がある。
- 当金庫は指定金融機関なので地公体向け貸出をゼロにするのは難しい。ただし無制限に同貸出を伸ばす気もなく、地域との良好な関係を築ける範囲で取り組んでいく。
- 地公体向け貸出金残高にアッパーを設けており、そこまでは推進していく。なお、比率は全体の貸出金残高の増減で多少上下するが、現状は「たまたま」との認識である。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

<sup>1</sup> 当該コメントは研修受講者の個人的な意見・感想を含むものであり、研修受講金庫の正式なコメントではない。そのため事例の記載にあたっては信用金庫名が特定できないように修正してある(信用金庫名の照会や関連資料の提供依頼にはお答えしていません)。